

ドローンで大麦の追肥

基肥なく追肥のみでの生育試験

2020年1月21日(火)

大麦の追肥(尿素)をドローンで行いました。

現在、管内で作付けている大麦「ファイバースノウ」のさらなる収量向上をめざし、滋賀県が指導のもと(農)農～夢せきのつの圃場1ヘクタールで、基肥を散布せず追肥のみで生育する試験栽培を行っています。作物の色や生育を見ながら同時進行で追肥を行うため、生産者の作業の省力化とドローン



の有効活用を先進的に模索していく中で、今回の散布実施となりました。

肥料には様々な粒径があり、ドローンでの粒剤の肥料散布は全国的にも実例が希少。当JAはドローンの導入から3年目を迎える今年、模索と実践を重ねながら研究に取り組んでいきたいと考えています。

収量増加を目指して試験栽培中の大麦の圃場に、ドローンを用いて追肥を行いました。